

カナリアの病気・害虫など

病気の症状

- ・羽毛をふくらませ、動作が鈍く元気が無い。
- ・昼間、頭を翼の中に入れて、うとうと眠る時は重症。
- ・握って見ると胸の肉が痩せて、胸骨が尖っている。
- ・鼻汁が出てクシッと咳をする。
- ・静かにしていても呼吸が速い。
- ・食欲が無くなり、♂鳥は鳴かなくなる。
- ・下痢で尻部の羽毛が糞で汚れる。

30℃程度に保温。

安静にして、風の当たらない所で飼育します。

症状に合った薬が入手できれば、適量を使用します。

①<気道炎>

呼吸が速くなり、クシッ、クシッと咳をします。体をふくらませ、口を開けて呼吸するようになり、食欲が低下し痩せてきます。重症になると緑色の糞となります。

②<肝炎>

肝臓が赤黒くなっているのが見えます。体をふくらませ動作が鈍く、呼吸が速くなり眠ることが多くなります。

③<ルイソウ症>

ルイソウとは虚弱という意味で、孵化40～50日頃の若鳥が痩せ細り、一日中翼に頭を入れて眠るようになると落鳥します。栄養失調あるいは遺伝的な体質と考えられており、近親繁殖を避けて体質を強化し青菜を十分に与えるなど飼養環境を改善します。

④<腸炎>

水っぽい下痢が続き、その割には元気ですが、次第に弱り痩せてきて糞は緑色に変化し、昼間も眠るようになります。下痢のため水を良く飲むのが特徴です。

⑤<脂肪過多症>

ずんぐり脂肪太りとなり、動作が鈍く飛ぶのが困難です。太り易い体質と運動不足が原因のため、広い追い込みカゴに放し、水浴や日光浴をさせ青菜を十分に与えます。

⑥<カナリア痘>

目を閉じがちになり、まぶたが腫れ水疱が出ます。呼吸が荒くなり口をパクパクあえぐようになると、食欲も無くなり数日で落鳥します。感染力が強く治療は困難です。

害虫など

①<ワクモ>

血を吸ったばかりのものは、大きく赤色ですが、時間が経過すると黒色で小さくなります。血を吸っていないものは灰色で極めて小さく、肉眼で見るとは困難です。

昼間はカゴの隙間に潜み、夜になると吸血します。巣引き中に発生すると被害が著しいので、皿巢に除虫菊粉剤（ピレトリン剤）を少量散布しておきます。

②<羽毛ダニ>

羽毛とくに風切羽や尾羽の羽軸に、駐車場の自動車のように並んで寄生します。水浴を良くする鳥では少なく、水浴びをしない鳥では寄生が多くなります。

羽毛の脂肪を食べるだけで、吸血しないため特段の害も無いようですが、石けんで風切羽や尾羽を洗うと容易に洗い流すことができます。

③<ハジラミ>

羽毛の中を自由に動き回り、時々表面を這い廻っているのを見ることがあります。小鳥用の除虫菊粉剤（ピレトリン剤）を羽毛にまぶすと落ちます。一週間おいて2回目の粉衣をします。

④<蚊>

蚊に刺されると赤く腫れ、傷口に細菌などが感染すると腫瘍となることがあります。時には、爪が脱落することがあるので網戸を張っておくと防止できます。

⑤<ねずみ>

普通は、カナリアの餌を食べるだけで特段の被害は無いが、鳥を襲う場合もあるので、ウロチョロする時は、殺鼠剤をカナリヤが食べない場所に置いて退治します。

⑥<へび>

春から秋、特に5～8月の梅雨期前後を含めた時期は、へびの被害が多くなります。小指が入るほどの隙間があると、へびは容易に侵入して小鳥を飲み込んでしまうので、5mm目以下の金網で完全に覆うとともに、へびの嫌うタバコの吸いがらなどを、ほぐして置いておくと効果があります。

⑦<イタチ>

一晩で20～30羽以上を全滅させることがあり、被害が最も大きいものです。こじ開けて侵入するので、しっかりした囲いを作って保護します。

ケガ

①爪が伸びすぎていると、引っかけてケガをすることがあるので、切り過ぎて出血させないように注意してカットします。（爪を透かすと爪肉が見える）

②壁に強くぶつかったりした時、首のあたりに大きな空気袋ができるのは気のう破裂。消毒した針などで空気を抜き、消毒薬を塗っておくが、再発し易い。